

第 1 回検討会における委員からの指摘事項

事業を通じて育成すべき青年像について

- ・ 自分に目標を課し、それを実行できる力。
- ・ 相手の気持ちを推量し、相談しながら問題を解決できる力。
- ・ 大きな組織を一人で引っ張るより、小さなグループを引っ張れる一人一人を育てる。
- ・ 自分がどのように活躍できるのかを探せる力。
- ・ 経験したことの自分にとっての意味を沈澱させる力。
- ・ 桃太郎モデル（回りがついてくる、当事者意識、強い思い込み）。
→そのためには、当事者意識を持ち、他者に任せず自分でやりきることが重要。
- ・ 正論だけを言い続けて他者を寄せ付けない青年ではなく、周りの意見を聞いてまとめる青年。
- ・ なぜなぜと聞き続けていくといずれ答えに詰まるが、それでもやりたいという気持ちをもつ青年。

内閣府事業が行うべきカリキュラム

- ・ 価値観や公平性（equity）のコースワーク。
- ・ スキルの構築は短期で可。人間関係は不可。
- ・ 目的意識が定まっていない青年に目的を持たす。自分の能力を気づかせる。
- ・ 自分の国について外からの視点で改めて知る機会をもたす。
- ・ すぐに生きるスキルでなく、将来困った時に思い出して役立つスキルでよい。難しい課題を抱えた人とのコミュニケーション。

事業プログラムの在り方について

- ・ 青年それぞれに目標を課させる（短期、中長期、さらには具体的に）。
- ・ それぞれが活躍できる場を多数用意。
- ・ ホームステイは現実を見るもので安全確保さえあれば、質は問題にならない。
- ・ ホームステイ先で如何にその生活に能動的に合わせられるかが重要。
- ・ 研修日程が年々詰め込まれ過ぎ。総花でなく今年のテーマを絞る。
- ・ 環境など一つの共有テーマを設定。
- ・ 事業、各プログラムの意味を理解した上で参加させる必要。

- ・ あれもこれも詰め込んだプログラムは、平均的な人間しか生み出さない。
- ・ 多様な国に行ってほしい。行けなければその国に行った人を研修講師とする。
- ・ ホームステイでは事前のセミナーでマインドセットが重要。色々あるが、そこから何を学ぶかが重要。

事業

- ・ 事業の効果測定をどのようにするか難しい。
- ・ 事業を比較できればいいが、それも難しい。

青年の募集について

- ・ 多少の期間短縮では社会人の参加は増えない。雇用主へのアプローチ必要。
- ・ 切羽詰っている者を選考すべき。
- ・ 自前で研修をできない中堅企業の雇用主へのアプローチが効果的では。人材プログラムの中に入れてもらう。
- ・ 自衛隊にも青年参加の件を話してみてもは。活躍の幅が広がっており、他者理解も必要。
- ・ 芸術、文化等の特別な才能を持っている人材枠も作ってみてもは。例えば写真家なども。